

モバイルのページであろうと文章が縦書きならケータイ小説なんぞが読み易くなるだろう。

一般のパソコンなら `tbl-r1` という記述をタグ内に置けば簡単に縦書きが実現するのだが、モバイルでは上手く行かない。

エクセルのセルを方眼にして書きあがった範囲をHTMLのソースにコピーする方法をやって見たが結構シンドイ作業だった。

そこで今回はTEXTAREAタグを使う支援ソフトにより簡単にソース文を書く方法を思いついた。

更にEDITORにまでそれを進化させ今後携帯モバイルで文章を表す際に用いて縦書きを推進して行きたいと思います。

平成二十一年十二月 宏ちゃん



右の文章を携帯モバイルのHP内で述べた。

以降、画面には縦十行ほどが徐々に流れて行く「縦書き自動スクロール」方式も出現した。

JavaScriptを含むHTML即ちDHTMLで作られるものなので、そのページへリンクするだけで実行する。

ほぼ50行を1頁とするが、続きのページへ自動リンクも可能なので、長文でも無制限に扱える。

その実用編として百人一首が次々に流れ現れる、あたかも音楽で言うところのBGMのように歌（短歌）が流れる様からコンテンツの名前を「**BGM百人一首**」と題した。

一首につき左のように

- 1 XXXXX XXXXX
- 2 XXXXX
- 3 XXXXX XXXXX
- 4 (詠み人) XXXXX
- 5 【余白行】

五行が必要であるため一頁には10行として、百首を全て表すには10のDHTMLを用意した。

タイマー処理と横書き文字変数↓縦書き変換のロジックのJavaScriptなどは皆共通なので、サーバー上にひな形HTMLを置き、CGIのエディターで横書き文字変数を編集するアプリまで作成して能率を上げた。

これでもう手作りの縦書き表現法は完了とまで思っていたのだが、五月末にiPadがやってくるので、電子図書の優れたアプリの【i文庫HD】をWEBで見学しているうちに、原稿がPDFであることに注目して、自分の文書もPDFで縦書きにする方法

【**imy文庫**】を編み出した。

それは簡単で、Wordなり(Excel)で縦書きの原文を書き、PDF形式でファイル保存するだけのものだ。この文もそれに依る。

平成二十二年五月二十二日